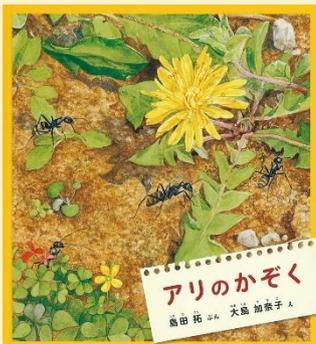


【緑地を楽しむ本】

『アリのかぞく』

島田 拓・ぶん 大島 加奈子・え

福音館書店



いくつになっても、アリが歩いていると、ついしゃがんで見入ってしまいます。行列を作って何かを運んでいようものなら・・・もうたまりません。

しかし、女王アリが最初は一匹でこんなにがんばっているとは知りませんでした。一ヶ月半の間、何も食べずに卵を産み、幼虫の世話をし、さなぎになるためのまゆを作りやすいように土をうっすらとかけてあげたり、まゆも破いてあげる。そうして初めて

生まれた「はたらきアリ」が持ち帰ったもので、やっと食事ができるとは。卵を産み続ける女王アリの生命力に驚きますし、20年も生きるということも驚きでした。

アリの生活がていねいに描かれていて、これからの季節、アリを見る目がちょっと変わりそうです。

この本には書かれていませんが、巣の中のアリの何割かはボーッと休んでいるとか、そんな点に共感するのは大人だからでしょうか。

(遠藤)